

令和6年（2024）9月3日～9月6日

令和6年度（2024）

第3回出雲市議会(定例会)
一般質問通告一覧表

令和6年度（2024）第3回出雲市議会（定例会）
一般質問通告一覧表 目次

9月3日（火） 10:00 開会			9月4日（水） 10:00 開会			9月5日（木） 10:00 開会			9月6日（金） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	大場利信	3	1	福島孝雄	9	1	板倉一郎	15	1	伊藤繁満	21
2	長廻利行	4	2	後藤由美	10	2	玉木満	16	2	木佐宏	22
3	福田実	5	3	南浩二	11	3	鐘推義憲	17	3	今岡真治	23
4	川上幸博	6	4	高橋扶治夫	12	4	今岡久人	18	4	錦織稔	24 25
5	大谷良治	7	5	湯浅万里子	13	5	湯浅啓史	19	5	吉井安見	26
6	石橋広信	8	6	保科孝充	14	6	宮本享	20	6	本田一勇	27

質問者	22 大場利信
質問事項・質問内容	
(1) 学力向上と「ゆとり」について	
<p>① 出雲市の児童・生徒の学力について、これまで全国学力調査結果の報告がその都度なされてきています。私は、以前から出雲市の児童・生徒においては全国の児童・生徒の平均正答率と同レベル以上の結果であって欲しいと思っておりますので、今回あえて「学力」を取り上げました。</p> <p>ア 学力とは何か教育長の見解を伺います。</p> <p>イ 学力を養うには、体験や経験が基本になるといわれています。体験や経験を得るのに「ふるさと教育」が果たしている役割を伺います。</p> <p>ウ 自主学習や家庭学習を習慣化する「放課後学習等支援事業」や地域の運営委員会に委託して行う「放課後子ども教室推進事業」が実施されています。これらの実施状況及び成果を伺います。</p> <p>② 次に、教育の「ゆとり」について伺います。変化が激しく誘惑も多い世の中ですが、児童・生徒には「ゆとり」をもって自主的に学校生活を送ってほしいと考えます。また、教員の働き方改革も求められています。</p> <p>ア 児童・生徒が分かりやすい授業を受けるには、教員の「ゆとり」と児童・生徒の「ゆとり」が不可欠と考えます。児童・生徒の「ゆとり」と教員の「ゆとり」がもたらす教育上の効果をそれぞれ伺います。</p> <p>イ 文部科学省は児童・生徒と教員の負担を軽減するため、週当たりの授業時数を減らし、その分を年間でカバーする方針を出しました。他市では5時間授業や二学期制が導入されていますが、本市ではどう考えているのか伺います。</p> <p>ウ 児童・生徒や教員の「ゆとり」の確保には社会教育の充実や社会教育との連携が必要と考えますが、この点について伺います。</p>	
(2) 中小企業者のデジタル化・省力化等の推進について	
<p>① この事業は、地場企業支援事業の一部を構成するもので、令和3年度からデジタル化の推進に取り組み、令和6年度にはデジタル化の推進と省力化の推進へとその内容を充実してきています。</p> <p>デジタル化は、物価高騰、労働人材の不足（採用難）の中で、中小企業者の業務の効率化と生産性向上と事業継続には欠かせないものとなっています。誘致活動の結果、最近出雲市内にも多くのIT企業が進出されています。これらのIT企業と中小企業が連携しデジタル化が推進されることを期待しております。</p> <p>そこで伺います。</p> <p>ア デジタル化を導入された中小企業の数</p> <p>イ 導入された主な部門と効果</p> <p>ウ 導入に向けた課題及び方策</p>	

質問者	30 長 廻 利 行
質問事項・質問内容	
(1) 7月の豪雨災害により被害を受けている日御碕地区の支援について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 7月の豪雨災害により被害を受けている日御碕地区の支援について <ul style="list-style-type: none"> ア 日御碕地区の日常生活の支援について イ 日御碕地区の観光支援について <ul style="list-style-type: none"> a 今後の日御碕地区の観光振興策について伺う b 観光関連事業者に対する財政的な支援はあるのか ウ 日御碕地区の孤立化を防ぐ道路の整備について <ul style="list-style-type: none"> a 今後の迂回道路の整備について伺う b 県道大社日御碕線の完全復旧の見込みについて伺う 	

質問者	3 福田 実
質問事項・質問内容	
(1) 現在の市内小中学校の維持・管理の状況について	
<p>① 現在の市内小中学校の状況について伺います。</p> <p>ア 現在の市内小中学校の数を伺います。</p> <p>イ 合併後に閉校となった市内小中学校の数を合併前の旧2市5町別にお聞かせください。</p> <p>ウ 今後、統合などにより閉校となる市内小中学校の数をお聞かせください。</p> <p>エ 閉校により空いている校舎の現在の利活用状況について伺います。</p> <p>オ 市内小中学校の現在の草刈り作業の実施状況について伺います。</p> <p>カ 市内小中学校の備品等整備費の年次推移を伺います。</p>	

質問者	28 川上幸博
質問事項・質問内容	
(1) 人口減少下における人手不足問題について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 市内産業の人手不足の現状と対策について伺う。また、一次産業の担い手不足の現状と対策及びそれぞれの産業に及ぼす影響を伺う。 ② 出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の中の人口推計、目標人口などの人口ビジョンについての現時点での評価、今後への課題及び解決に向けた方針を伺う。 ③ 出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の2040年における合計特殊出生率2.30達成への道筋と、こどもを中心に据えた取り組み方針を伺う。 ④ 人口減少が著しい地域におけるコミュニティの活性化策と、移住推進による地域活性化に向けた取り組みを伺う。 	

質問者	16	大谷良治
質問事項・質問内容		
(1) 農福連携について		
① 出雲市における農福連携の普及実態 ア 農福連携のこれまでの取組み a 農福のマッチング、障がい者等の就労の場確保の現状 イ 今後の取組みと課題		

質問者	5 石橋 広 信
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市の「婚活」に関する取組みの現状と今後を伺う	
<ul style="list-style-type: none"> ① 出雲市の未婚率の現状を伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 性別、年齢別の出雲市と全国との比較 イ この現状の要因 ② 現在の出雲市の「婚活」の取組み内容に関して伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 今までの取組みの内容とその実績 イ その取組みに対しての課題と今後の方向性 ウ 参加者の声 ③ 現在の取組み、また他地域の先行事例等を通して、縁結び出雲の「婚活」の今後の取組みを伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 対象者の声を聴く議論の場の設置（オンライン含む） イ 取組みの中心となって行動する結婚支援コーディネーター（仮称）の設置 ウ 市独自のAIを活用したマッチングサービスの導入 エ 出雲市へ来られた方々との絆を深める「縁結びカード」（仮称）の活用 	
(2) 出雲市の子育て支援センターに関して伺う	
<ul style="list-style-type: none"> ① 現在の出雲市の子育て支援センターの概要について伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 支援センターの整備状況 イ 支援センターの利用状況 ② 現在の子育て支援センターの活用状況に関して伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 支援センターの担う役割 イ 利用者の声 ウ 課題と今後の対応策 ③ 視察にて見学した先行事例に見る、子育て支援センターの取組みに関して伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ア 山形県長井市の遊びと学びの交流施設「くるんと」（多機能型図書館と子育て世代活動支援センターの複合施設）は利用者から高い評価を受けている。出雲市の子育て支援センターの現状と比較してどうか、市の見解を伺う。 	

質問者	20 福島孝雄
質問事項・質問内容	
(1) 带状疱疹ワクチン接種費用助成について	
<p>① 厚労省における専門家会議の検討状況を伺う。</p> <p>② 带状疱疹ワクチン接種費用を助成している自治体数を伺う。</p> <p>③ 带状疱疹ワクチン接種費用を、次のとおり助成した場合におけるそれぞれの市の負担額を伺う。</p> <p>ア 50歳以上を対象として2分の1助成の場合、3分の1助成の場合</p> <p>イ 60歳以上を対象として2分の1助成の場合、3分の1助成の場合</p> <p>ウ 65歳以上を対象として2分の1助成の場合、3分の1助成の場合</p> <p>エ 70歳以上を対象として2分の1助成の場合、3分の1助成の場合</p> <p>④ 带状疱疹ワクチン接種費用助成について出雲市としての今後の考えを伺う。</p>	
(2) 令和6年産 稲作の現状について	
<p>① 令和6年産米について伺う。</p> <p>ア 作柄状況</p> <p>イ 高温障害の状況</p> <p>ウ イネカメムシの被害状況と支援</p> <p>エ 令和6年産米の品種ごとの価格状況</p> <p>オ 現在の在庫状況と令和6年度の在庫目標</p> <p>② 稲作資材の価格動向を伺う。</p> <p>③ 1haあたりの所得状況の動向を伺う。</p> <p>④ 今後の稲作維持のための「地域計画」の進捗状況と今後の対策を伺う。</p>	

質問者	1 1 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 高齢者の補聴器購入費用に助成を	
<p>① 「聞き返すことが多くなった」「聞こえないため適当に相づちをうっただけになってしまうので、集まりに出にくい」。こうした加齢性難聴者の割合は、70代男性で5人に1人、女性で10人に1人にのぼると言われています。日常生活に不便をきたし生活の質を落とすだけでなく、コミュニケーションが取りづらくなっていくことによる認知機能の低下や、引き込みにもつながりかねず、高齢者の暮らしにとって切実な問題となっています。こうしたとき、補聴器の使用が効果的ですが、高価で買えず、市で助成して欲しいという声が広がり、軽度・中等度の難聴の高齢者などに補聴器購入助成を行う自治体が急速に増えています。そこで伺います。</p> <p>ア 加齢性難聴が及ぼす高齢者の健康や日常生活への影響についての所見、また補聴器の使用による効果、役割についてどのように考えておられるのか伺います。</p> <p>イ 補聴器を購入したくても非常に高額で、誰もが簡単に買えるものではありません。そこで、全国的に補聴器購入助成を行う自治体が増え、今年1月時点で238自治体となっています。県内でも益田市に続き4月から安来市、吉賀町が購入助成を始めました。出雲市としても、助成制度を実現すべきと考えますが、所見を伺います。</p>	
(2) 会計年度任用職員の処遇改善について	
<p>① 会計年度任用職員の制度は、国が2020年4月に導入し、それまで非正規として長く働いていた人も、会計年度ごとの1年契約を原則とする仕組みです。国は非正規労働者の処遇改善を趣旨としてスタートさせ、出雲市でも給与の引き上げや退職金制度ができるなど一定の改善がはかられたとはいえ、依然として正規職員と比較すると、継続的な任用が保障されていないなど、安定した雇用、業務内容に見合った処遇とは言えません。そこで伺います。</p> <p>ア この間、全国で地方公務員の非正規雇用化が進むなか、非正規の地方公務員の約9割が会計年度任用職員です。出雲市のおおむね10年前と現在を比較した状況、また、全職員の中で会計年度任用職員の割合について、職種ごとに伺います。</p> <p>イ 会計年度任用職員の中で、女性が占める割合を職種ごとに伺います。</p> <p>ウ 会計年度任用職員も、正規職員と同じ公務員として専門的・恒常的な公共サービスを担っており、安定的な雇用を保障することは公共サービスの維持には不可欠であります。その職務に専念できる処遇、手当、休暇などで正規職員との均等な処遇が必要と考えますが、所見を伺います。</p> <p>エ 出雲市では、会計年度任用職員の再度の任用は2回まで非公募で更新できますが、3回目は一般公募となっています。「失業する可能性がありながら3月を迎えるのが恐怖」など、会計年度任用職員にとって「3年ごとの公募」は大きな不安を抱える状況に追い込んでいます。再度の任用においては、本人の継続の意思を確認の上、公募によらず勤務実績に基づいて任用すべきです。所見を伺います。</p>	

質問者	2 南 浩 二
質問事項・質問内容	
(1) 子どもたちへの食農教育の推進について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 出雲市及びその他市内で行われている食農教育の現状について ② 福島県喜多方市のような食農教育を小中学校の教育に取り入れることについて 	

質問者	7 高橋 扶治夫
質問事項・質問内容	
(1) 「DMOいずも」の設立について	
<p>① 現在の出雲市においては、出雲大社以外の市内観光地やお土産となる名物の認知度が十分とは言えず、宿泊者数や訪問箇所数、観光消費額単価（観光客1人の1回の旅行における消費額）などいずれも伸び悩んでいるのが現状です。さらに、課題解決に必要な観光客・宿泊客に関するビッグデータの収集・整備もままならず、データに基づいた効果的な施策を打つことも現状では難しいと思います。</p> <p>こうした状況を打破するには、出雲大社以外の観光資源のPRに磨きをかけるとともに、その魅力にストーリー性を持って、届けたいところへの的確に情報を届け、周遊を促す仕掛けが必要であると考えます。そして新しいアイデアの発見や新しい人材の発掘、関係者間の連携強化などが不可欠だと考えています。</p> <p>そこで、これらの穴を埋めるため、「DMO」の存在が必要であると考えます。因みにDMOとは、観光庁が「観光地域づくりのかじ取り役（司令塔）」と位置付けているもので、官民の幅広い連携によって観光地域づくりを推進する法人のことを言います。仮称ではありますが、「DMOいずも」の設立を提案したいと思いません。出雲市の見解を伺います。</p>	
(2) 有害鳥獣のスマート捕獲について	
<p>① 農林水産省は、シカやイノシシなどの有害鳥獣対策にデジタル技術を活用する「スマート捕獲」の推進に乗り出しています。スマート捕獲とは、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）を使って、農作物に被害を与えるシカやイノシシを中心とした有害鳥獣を捕獲する取り組みであります。有害鳥獣の捕獲者の高齢化や担い手不足は全国的に深刻化しており、出雲市でも同様の問題を抱えています。出雲市としてもスマート捕獲について積極的に取り組んでいく必要があると考えますが、出雲市の見解を伺います。</p>	

質問者	4 湯 浅 万 里 子
質問事項・質問内容	
(1) 1日農業バイトアプリ「daywork」の活用・普及の推進を	
<p>① 企業でも働き方改革が進められるなか、従業員の休日の過ごし方として、1日農業バイトの時間が増えれば、所得も増えて、リフレッシュもできると考えられます。農業に従事する労働者には、労働基準法上の「労働時間」が適用されないため、副業としても積極的に推進できるうえ、社会貢献にもなると考えます。企業や求職者に対する、市のこのアプリの周知状況について伺います。</p> <p>② 1日農業バイトアプリ「daywork」は、生産者の方々が募集をされることによりスタートすることになりますが、アプリのスマホへのインストールやアカウントの作成など、生産者がスマホを使い慣れていないとハードルが高いと思います。募集の登録方法等について、生産者へ個別に対応していくことが必要だと感じますが、そのお考えについて伺います。</p> <p>③ 出雲農業未来の懸け橋事業において、1日農業バイトアプリ「daywork」にどのような支援が行われているのか伺います。</p> <p>④ 今後、市として、1日農業バイトアプリ「daywork」の活用・普及をどのように推進していくのか伺います。また、出雲農業未来の懸け橋事業によるこのアプリの活用に関する支援は、継続して行われるのか伺います。</p>	

質問者	24 保科孝充
質問事項・質問内容	
(1) 外国籍の市民・児童・生徒の実態と今後の対策を伺う	
<p>① 国際化が進むなか、出雲市でも外国籍の市民が年々増加しています。市の国籍別人口調査によりますと、出雲市全体では平成27年3月末時点で2,440人でしたが、その9年後の今年、令和6年3月末時点で4,553人となり約1.8倍に増加しています。</p> <p>このことは、少子化・人口減少が進む中で歓迎すべきことですが、外国籍の市民が増えている地域の現在の実態と今後の対策を伺います。</p> <p>ア 地域の実態と今後の対策について伺います</p> <p>a 外国籍市民の人数・保育幼稚園児数・小学生児童数・中学生生徒数が多い地域を、コミセン単位で上位5位まで伺います。</p> <p>b 各小中学校等での指導体制はどのような状況か。特に外国籍の児童生徒が多い中部小学校・斐川西中学校・直江保育所について伺います。</p> <p>イ 外国籍市民の社会保険料等の支払い義務や選挙権について</p> <p>a 市税等の支払い義務について知らない市民が多いと感じています。種類（税金・保険料等）ごとの支払義務についてお聞きします。</p> <p>b 選挙権あるいは被選挙権はどのようなになっていますか。</p> <p>ウ 外国籍市民はブラジル国籍をはじめ、今後も増加すると思いますが、島根県の果たす役割は大きなものがあります。学校の教職員加配、相談支援体制等にもっと力を入れていただきたいと思いますが、実態と今後の方向性・力点を伺います。</p>	
(2) 放課後児童クラブの実態と今後の対策について伺う	
<p>① 令和6年5月8日の議会全員協議会及び新聞記事で、放課後児童クラブの待機者・未決定者についての報告・掲載がありました。新聞の記事には、令和6年4月1日時点で、出雲市が64人、松江市が46人で、島根県はその主な要因を共働き世帯の増加による需要の高まりとしています。</p> <p>実態と今後の対策について伺います。</p> <p>ア 未決定者について</p> <p>a 4月1日時点の未決定者64人はその後どのような状況か 出雲市全体と、特に未決定者が多く、今後も未決定者が増加する可能性のある斐川地域の児童クラブはどのような状況か</p> <p>b 「未決定者」と「待機者」の呼び方はどのような違いがあるのか</p> <p>イ 支援員について</p> <p>a 出雲市及び島根県では、人材確保対策として県立大学・島根大学との連携あるいはシルバー人材センターの活用としているが、状況を伺う</p> <p>b 支援員はどのような要件が求められるか。実際に保護者が求める支援員の要件とこども家庭庁の見解は違うような気がするが、市としての考えを伺う</p> <p>ウ 施設について</p> <p>a 令和7年度を迎えるにあたって、希望者の増加は明らかであり、施設整備の予定はどのように考えているか</p> <p>b 立派な建物でなくても、例えば近くの空いた民家を整備して利用する方法もあるのではないか</p>	

質問者	27 板倉 一郎
質問事項・質問内容	
(1) 7月の大雨による市街地の内水氾濫について	
<p>① 7月9日の大雨により多くの地域で被害が発生した。幸いにして人的な被害は報告によると軽傷1名ではあったが、県道大社日御碕線の道路崩落による日御碕地区の孤立や、市街地での内水氾濫による住家や車の浸水など多くの被害が発生した。そこで、今回の大雨の状況および今後の対策について、今回は市街地の内水氾濫に絞り次の点を伺う。</p> <p>ア 7月9日の大雨の状況および被害の状況について伺う。また、今回の大雨では、旧出雲市内の多くの地区の方から冠水被害の声が寄せられたが、冠水被害の状況をどのように把握しているのか伺う。</p> <p>イ 県管理河川の新内藤川流域では内水氾濫が発生したが、現在の改修状況および今後の改修の見通しについて伺う。また、新内藤川流域の新内藤川、赤川、午頭(ごず)川では、平成9年の洪水時に対応し、暫定改修済みとして、それ以降改修計画がたっていない。今回の大雨は、平成9年と比べて降雨の状況はどうであったのか伺うとともに、今後暫定改修済みの位置付けを見直し、強力に改修の推進を働きかける考えはないか伺う。</p> <p>ウ 今回の大雨を受け、市の内水氾濫のハード対策について伺う。現在も一部農業用用水路の活用などを実施されているが、今後どのような対策を実施されていくのか伺う。</p> <p>エ 河川改修には、多くの時間を要すると考える。その間のソフト対策について次の点を伺う。</p> <p>a 今回の大雨は昼から夕方にかけて発生しており、多くの市民の方が車両などの浸水を防ぐため自主的に車両の移動をおこなったが、仮に夜間に同様の大雨が発生した場合、多くの車両被害が発生すると考える。今回の浸水地域の排水路の水位観測や市民への避難周知、車両の避難場所の設定などを検討し実施する考えはないか伺う。</p> <p>b 下水道の未整備地域では、合併浄化槽で汚水処理をされているが、今回は合併浄化槽の排水路から逆流し汚水が浄化槽からあふれ出し、氾濫した水が引いたあと、異臭や汚水による汚れなど大変な状況であったとの話を伺った。逆流を防止する対策について伺う。</p> <p>c 河川改修が長期にわたると考えた時、エアコンの室外機を高いところに移設する、合併浄化槽の逆流防止対策、自宅への浸水防止対策など市民が実施する対策に補助制度を設ける考えはないか伺う。</p> <p>d 出雲市は、消毒用噴霧器の貸し出しの対象は床上浸水の罹災世帯となっているが、浄化槽の汚水や腐敗物が流れ込んだ場合など消毒の必要なケースがあり、基準を見直すべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>	

質問者	10 玉 木 満
質問事項・質問内容	
(1) 「熱中症警戒アラート・特別警戒アラート」の発表状況等について	
<p>① 環境省及び気象庁が運用している「熱中症警戒アラート・特別警戒アラート」。今夏、頻回に発表されていたと感じているが、発表状況や関係する事項について伺う。</p> <p>ア 熱中症警戒アラート・特別警戒アラートについて</p> <p>イ 今夏の発表状況</p> <p>ウ 市が行った周知・注意喚起について</p>	

質問者	6 鐘 推 義 憲
質問事項・質問内容	
(1) 『食料・農業・農村基本法』の改正法施行に伴う本市の農業への影響について伺う	
<p>① 令和6年5月29日に『食料・農業・農村基本法』の改正法が成立、6月5日に公布・施行されました。『食料・農業・農村基本法』は、農政の基本理念や政策の方向性を示す重要な法律です。農政の憲法とも称されるこの法律は、(1)食料の安定供給の確保、(2)農業の有する多面的機能の発揮、(3)農業の持続的な発展、(4)その基盤としての農村の振興、を理念として掲げ、もって国民生活の安定向上および国民経済の健全な発展を図ることを目的としています。改正前の『食料・農業・農村基本法』制定から四半世紀経過していることから、改正法では、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における農業生産の維持・発展と農村の地域コミュニティの維持」の実現を目指し、基本理念の見直しと関連する基本的施策等が定められました。そして、その施策の方向に即して、関連三法である『食料供給困難事態対策法』、『農振法等改正法』、『スマート農業技術活用促進法』が成立し、新たな農政の実施に着手されたところです。</p> <p>現在、本市においても、気候変動等による自然災害の多発や病害虫による農作物被害、生産資材価格の高騰、人口減少および高齢化に伴う農業の担い手不足等、持続可能な農業・再生産可能な農業に向けて課題が山積しています。そのような状況下、今回の『食料・農業・農村基本法』の改正法施行は、今後、本市の農業に影響が及ぶと考えるところです。</p> <p>そこで、今般の『食料・農業・農村基本法』の改正法の内容について、また、その施行に伴う本市の農業への影響について、次の通り伺います。</p> <p>ア 『食料・農業・農村基本法』について</p> <ol style="list-style-type: none"> a 改正のポイント（改正前の基本法との相違点） b みどりの食料システム戦略との関連性 c 農業分野における施策の方向性 d 今後のスケジュール <p>② 本市における農業振興にかかる課題と解決に向けた取り組みの現状について</p> <p>③ 『食料・農業・農村基本法』の改正法施行に伴う本市の農業への影響について</p>	

質問者	8 今岡久人
質問事項・質問内容	
(1) 今年の大雨災害の状況及び対応について	
<p>① 令和6年7月9日に、令和3年に引けを取らない大雨が降りました。知井宮の観測点では、時間雨量が50mmと市内で最高でした。その他の地区も30mmから44mmという猛烈な雨が降りました。</p> <p>今夏の災害では「主要地方道大社日御碕線」の崩落により、日御碕地区の皆様が孤立状態になり、ニュース等で大きく取り上げられました。完全復旧までにはかなりの時間が必要ではありますが、一日も早く日御碕地区全体が元通りになる事を願っています。</p> <p>また、道路の冠水等の被害が、令和3年の災害と同じ場所で発生して通行に支障が出た事、あるいは住宅地に水が溢れ床下や床上浸水が発生した事が気になりました。令和3年と全て同じ場所では無いにしろ、この間に必要な対策はされたのだろうか、あるいは関係機関などと協議がなされたのか、等々疑問がわいてきました。</p> <p>そこで次の質問を致します。</p> <p>ア 市道・県道・国道で約250か所にも及ぶ被害箇所がありました。3年前の災害時と比較して件数は増えていましたか。お尋ねします。</p> <p>イ 土地家屋について、宅地内への浸水・家屋の床上・床下浸水被害はどのくらい起きていましたか、お尋ねします。</p> <p>ウ 3年前と同じ場所や地域での浸水被害はどの程度あったのでしょうか、お聞かせ下さい。</p>	

質問者	18 湯 淺 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 特定非営利活動法人ミライビジネスいずもの活動について伺う	
<p>① 「特定非営利活動法人ミライビジネスいずも」は、地域産業の活性化、活力ある出雲市のまちづくりに寄与することを目的に、それまで別々の存在であった「NPO法人21世紀出雲産業支援センター」と「NPO法人ビジネスサポートひかわ」との合併により令和5年4月に設立された。</p> <p>1年数ヶ月が経過した現在の活動状況について以下の点を伺う。</p> <p>ア 2つの法人が合併することで得られるべき効果をどのように設定していたか、また、実際の相乗効果はどの程度あるのか</p> <p>イ この法人の収入源は何か、独自財源があるか</p> <p>ウ 職員体制はどのようになっているか、掲げた事業を実施できる体制か</p>	

質問者	29 宮本 享
質問事項・質問内容	
(1) グリーンステップC谷の利活用について	
<p>① 国民スポーツ大会自転車競技場としての利活用について</p> <p>ア 島根県が会場として決定し、その後、競技場建設が一旦保留となった経緯と理由について伺う。</p> <p>イ 財政負担の重さは最初からわかっていたはず。経済波及効果を考えると十分元は取れるうえに、建設業界にとっても新たな地域経済活性化につながるチャンスだと思われる。財政負担の重さを検討した内容について、県からどのような説明があったのか。</p> <p>ウ 県が大会後の活用が十分見込めないという判断に至るまでどのように検討されたのか、その経緯と内容について県から市に対してどのような説明があったのか。</p> <p>エ 今回の保留について市としてどのようにお考えか。また今後、県に対してどのように対処していく考えなのか。</p> <p>オ 県は再検討すると言っているが、どのように検討し、いつごろまでに検討結果を公表すると言っているのか。</p> <p>② 残る部分の利活用について</p> <p>ア 造成のスケジュールについて伺う。</p> <p>イ 県と市において利活用の検討はされているのか、そもそも利活用についてどのような見解をお持ちなのか、あらためて伺う。</p>	

質問者	23 伊藤 繁 満
質問事項・質問内容	
(1) 出雲市農業に不可欠な農業用水の安定的確保対策について伺います	
<p>① 出雲市総合振興計画・出雲新話2030では、基幹産業として農業振興を図ることとしています。まちづくりの施策「海・山・大地の恵みを生かす」では新しい農業のカタチへの挑戦として、AI（人工知能）やICT等の先端技術を活用したスマート農業の推進や、付加価値をつけた販売展開等を目指すとされています。</p> <p>一方、国においては、食料・農業・農村基本法の改正により新たに食料安全保障に関わる項目が加わり、今後の農業情勢、農業を取り巻く環境は大きく変わっていくものと考えています。この様な状況の中で、農業振興を図るうえで欠くことのできない重要な柱として、一つ目に農業用水の安定的確保の問題があります。</p> <p>二つ目の柱としてその基盤となる土地の問題があります。現在、斐伊川右岸と左岸から取水している約5,000haの農地には、上流の尾原ダムから灌がい期、非灌がい期に分けて一定の水量が流されています。森坂大橋下流の上島観測所における流量が表示されているわけですが、現実には斐伊川の河床は放水路への流入等により想定以上に年々低下し、斐伊川左岸、右岸での取水地点では取水が困難になっています。このため、江戸時代から続く水寄せを人工的に行い、砂の堰をつくり不安定な取水を行っている状況で、農業振興に大きく支障をきたしています。これらの問題について、平成24年6月議会、平成26年12月議会、令和元年6月議会、令和3年3月議会に取り上げて質問してきました。答弁は国、県に要望していくこととされていますがその結果について確認はしていません。</p> <p>斐伊川右岸側2,500haの農地は宍道湖淡水化を前提に揚水機場の位置を決定し、それに連結してパイプラインが施工されていることから、淡水化中止に伴う代替水源確保対策は十分に支障なく行うことになっています。代替措置として国営事業によりこれまで2回にわたり代替策が実施されてきましたが想定以上に取水源である斐伊川の河床低下が進行し安定的農業用水の確保が困難となっています。</p> <p>江戸時代から脈々と続けられている砂堰の構築を今後も更に続けていくのか、あるいは令和の時代にふさわしい近代的な取水方法に改めるのかその決断が求められています。</p> <p>農業用水の安定的確保について、令和7年度出雲市重点施策の県知事要望書にありません。</p> <p>ア 斐伊川取水の受益農地面積と用水量を左岸、右岸別に、伺います。</p> <p>イ 過去10カ年の砂堰構築費用の推移を左岸、右岸別に、また主たる財源は何か、伺います。</p> <p>ウ 斐伊川河床低下に対する対応策について実施状況を伺います。</p> <p>エ 農業用水をめぐる気候温暖化対応、慢性的な水不足対応、原始的な取水方法の改善についてどのように解決を図るのか、伺います。</p> <p>オ 斐伊川流域の農業振興について農業産出額を示すことにより将来ビジョンを明確にし、出雲新話2030が生きた計画とすべきではないか、伺います。</p> <p>カ 国営かんがい排水事業の採択要件である受益地3,000ha以上を確保し、中国土地改良調査管理事務所で行われている業務を前倒して早期に出雲平野全体の農業用水の安定的確保対応策を樹立すべきではないか、伺います。</p>	

質問者	15 木 佐 宏
質問事項・質問内容	
(1) 旧平田地区の永年課題の小さな防災施策すら解決しない飯塚市政に未来は託せない、主因たる選挙手法の変革をもアピール・市民、皆々様も真摯に受け留め熟知思考を！	
<p>① 旧平田行政区では票の買収を始め酒食接待が横行、元来清潔で公明なる選挙運動が汚されて来た忌まわしい過去がある、当選を得て、選挙事務所に数百軒から虚礼を映す「箱詰清酒」が並ぶ悪しき慣習が有った、悪しき慣習を破壊活動を徹底、活動が成功この悪習は今日では完全に消滅した。</p> <p>しかしその後も既得権者らによる、不公平、かつ組織力による、特定候補者擁護の自治会推薦や各種団体による推薦行為、理不尽かつ不公平な選挙運動が後を断たない、斯かる行為により、誕生した者がいる事を全市民が忘れては成らない、忘れることは悪辣な選挙妨害行為者の共犯者に自らが陥ること、結末は、真実の主権者の為の市政は、実現できない、全市民の皆様は、自らが選挙戦に、どう関わって来たのか、冷静に振り返って見て、来春の選挙には清潔で公明かつ、真の投票権行使をなされる事を切望する。</p> <p>旧平田地区では、選挙運動が禁じられている、公職に属する、土木委員長や消防団員、あるいは民生委員や福祉委員までも市長の許可を得たと、違法な集票目的個別訪問を堂々と展開していた、これでは真っ当な政治家は育たない、市政を市民の手に取り戻すには、何をなすべきか良く考えて下さい。</p> <p>平成の世直し人は、告示後一週間の選挙最中に、自らの選挙カーで、市役所と警察署に乗り付け、毎回、選挙管理委員会委員長と警察署長にたすきを「はずして」入り、書状をもって「違法な選挙活動を徹底して取り締まる」ことを申し入れ、市役所と警察署の前路上から、市民の皆様、選挙管理委員長と警察署長に書状をもって申し入れた旨訴え、警察や選挙管理委員会が木佐宏の申し入れに対し、誠実に対処するか否か監視されたいと選挙カーの拡声器を活用し有権者に強く訴えて来たものである。</p> <p>選挙戦に当たり、現職強しとのメディアの報道姿勢も如何なものか、普段から市長や特定議員らに付度した報道姿勢は、既に不平等、不公平を実行し、既得者らに媚びた、虚像に加担する行為と揶揄されるべき事、結果として市民のための真の政治家の誕生を阻害する中立性に欠けた行動ではありませんか、平成の世直し人の議員活動への報道記事を振り返り視ると、今日では少数意見無視の不平等がまかり通っていると強く感じずにはいられない。</p> <p>世の中を良くするのはいつの時代も市民の常識が、反映されるか否か問われている、そこで、提言するがささやかな事であっても、ポスター貼りを告示日3~4日程度前に、立候補者のポスターを検閲、審査できたポスター貼りは、選管が事前にシルバー人材センターと協議し、地区ごとに斯かる行為を一喝すべしと提言する。</p>	

質問者	9 今 岡 真 治
質問事項・質問内容	
(1) 太陽光発電施設の現状と今後の対応について	
<p>① 出雲市における太陽光発電施設の現状について伺います。</p> <p>ア 太陽光発電施設の設備数、設置場所。</p> <p>イ その規模等、概要について。</p> <p>② 太陽光発電施設における懸念と対応について伺います。</p> <p>ア 近隣住民からの相談状況について。</p> <p>イ 太陽光発電施設におけるリスクをどのように想定されているのか。</p> <p>ウ 太陽光発電施設に関する条例制定の考えについて。</p>	
(2) 市立小中学校の修学旅行の実施方法について	
<p>① 市立小中学校の修学旅行の現状について伺います。</p> <p>ア 修学旅行の行き先および実施時期。</p> <p>イ 修学旅行の行き先が決まるのはいつか。また、どのような手順で決定しているのか。</p> <p>ウ 社会情勢の変化（物価高、オーバーツーリズム等）による影響。</p> <p>② 修学旅行は各学校の裁量で決定していると考えますが、現在の状況に対する教育委員会としての対応について伺います。</p>	

質問者	13 錦織 稔
質問事項・質問内容	
(1) 「マイナ保険証」の普及と利用促進について	
<p>① 厚生労働省より「マイナンバーカードの健康保険証利用の促進に向けたご協力のお願いについて」という事務連絡が発出されています。これを見ると、利用促進に向けた動画やポスターなどの広報素材の印刷提供など、サポートメニューがたくさんあります。現行の健康保険証の発行が終了する今年12月に向けての広報活動を強力に推進し、市民への正しい情報発信に取り組んでいくべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>② マイナンバーカードを未だ保有していない方への対応について、施設等に対するマイナンバーカードの取得支援の取り組み状況を伺います。また、高齢者施設や高齢者世帯などに対して、様々な支援がある事を周知し、希望する方が「マイナ保険証」を保有できるような取組を推進していくことが重要であると考えますが、本市の取り組み状況を伺います。</p>	
(2) インバウンド誘客について	
<p>① 本市には歴史的建造物、自然環境、伝統文化、地元の食文化など、都市部とは異なる独自の魅力があります。観光資源を発掘し、国内外に効果的に発信することが必要です。プロモーションの展開について考えを伺います。</p> <p>② 本市への交通アクセスを容易にする必要があります。公共交通機関を改善し快適に移動できる環境を整えることも大切です。交通アクセスの改善に向けた考えを伺います。</p> <p>③ 多言語対応を強化する必要があると考えます。現在の取り組み状況を伺います。</p> <p>④ 総合振興計画「出雲新話2030」では、「動画やSNSなどデジタルを活用した戦略的かつ効果的なプロモーションを展開し、出雲の認知度向上を図りながら国内外からの誘客を図ります」と記載されています。インターネットやSNSを活用して、魅力を広く発信することが効果的です。インフルエンサーを活用した取り組みの考えを伺います。</p> <p>⑤ 外国語に翻訳する場合、「縁結びの聖地」「神話のふるさと」「おもてなし」などの日本語は翻訳が難しいと考えます。伝えたい思いを理解してもらうことが、他地域との差別化につながり、誘客につながると考えます。インターネットやSNSをとおして、出雲の魅力がきちんと外国人に伝わっているのか伺います。</p>	

(3) 認知症の人に寄り添った地域社会の構築を

- ① 認知症サポーター講座の更なる展開や、認知症の人を単に「支える対象」としてとらえるのではなく、認知症の人を含めた市民一人ひとりが一人の尊厳のある人として、その個性と能力を十分発揮しながら、共に支え合って生きる共生社会の実現を目指し、本年の1月に認知症基本法が施行されました。啓発資料の作成配布など、認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深める取り組みを強化すべきと考えますが、見解を伺います。
- ② 認知症の人の行動・心理症状の発生を抑制し、認知症の人と家族等の尊厳ある暮らしを守るために、ユマニチュードの普及に積極的に取り組むべきと考えますが、見解を伺います。
- ③ 認知症の本人や家族等が、診断後早い段階で同じ経験をした方々との情報共有や、様々なアドバイスが受けられるように、インターネットによる交流も含めた、地域における認知症家族ピアサポート環境の整備も重要と考えますが、見解を伺います。
- ④ 今後、益々増加することが懸念される認知症の行方不明者に対して、一人一人の生命を守るためのGPS端末の積極的な活用に向けての負担軽減策の実施や、衣服等に貼れるQRコードが記載されたシール等の普及など、認知症の行方不明者の生命を守る取り組みを推進すべきと考えますが、見解を伺います。

質問者	1 吉井安見
質問事項・質問内容	
(1) 日御碕地区の事業者への直接支援について	
<p>① 7月上旬の集中豪雨により、出雲市内でも家屋等への浸水被害、道路の冠水など様々な被害が発生した。なかでも大社町日御碕地区は、アクセスできる唯一の県道が崩落したことにより、孤立状態となった。復旧作業は進められているものの、依然として地区外からの観光客等の往来はできない状況が続き、飲食業・宿泊業をはじめ日御碕地区内の事業者の経営に深刻な影響を及ぼしている。</p> <p>ア 崩落した県道の復旧の見通しについて伺う。</p> <p>イ 被害を受けた事業者に対し、経営を支えるための直接支援する施策を求めるが、市の考えを伺う。</p>	
(2) 再生可能エネルギーの普及と使用済み核燃料の処分について	
<p>① 太陽光発電、風力発電など再生可能エネルギーの普及・拡大とともに、発電事業者に一時的な発電停止を求める「出力制御」も増えている。</p> <p>ア 出雲市内の再生可能エネルギーの発電施設数と発電量の推移、今後の普及の考えを伺う。</p> <p>イ 休耕地などに発電施設が設置されるケースがあるが、周辺環境への影響、住民への十分な説明の機会が確保されているか伺う。</p> <p>ウ 出雲市内における出力制御の状況について伺う。また、出力制御を求められた発電事業者への補償について伺う。</p> <p>エ 島根原発2号機が再稼働すれば、出力制御の頻度や規模が大きくなり、再生可能エネルギーの普及を抑制することになると考えるが、認識を伺う。</p> <p>② 6月議会で原子力発電によって生まれる高レベル放射性廃棄物の最終処分場の出雲市内への受け入れについての考えを質問したが、明確な態度は示されなかった。</p> <p>ア 島根県知事は県議会の6月定例会のなかでも「県内受け入れには反対」の立場を明確にしている。改めて、市長の立場を伺う。</p>	
(3) 出雲市の産業振興のあり方について	
<p>① 市内の様々な業種で「人手不足」「担い手、後継者がいない」との声が聞こえる中で、出雲市内西部地域に新たな工業団地を造成する方針が示された。</p> <p>ア 市内の事業者の「人手不足」に拍車がかかることが懸念されるが、市の認識を伺う。</p>	

質問者	14 本田 一 勇
質問事項・質問内容	
(1) その後の職員提案制度はどう活用されていますか	
<ul style="list-style-type: none"> ① 職員提案制度はどんな目的で作られましたか。 ② 令和4年度は、20件の提案があったということによろしいでしょうか。 ③ 令和5年度の職員提案件数は何件だったでしょうか。そのうち優れたものがあれば、お知らせください。 ④ 5ヶ月たった6年度も同じく伺います。 ⑤ 毎年若手職員のグループが政策提案を行っていますが、昨年は3グループだったと思います。テーマと内容・結果はどうだったでしょうか、改めて伺います。 ⑥ 6年度の若手職員グループのテーマを伺います。 	
(2) 多伎町久村地区の飛砂問題の解決方法を伺う	
<ul style="list-style-type: none"> ① 久村地区の海岸道路の砂撤去作業について、昨年度の回数・費用、またどの時期が多いか伺います。 ② 海岸にある砂が、どのようにして道路上に上がるか調べたことがあるか、伺います。またどうしたら道路上に砂が溜まらないようになるか伺います。 ③ 道路パトロールは海岸道路を週に何回行っているか、伺います。 ④ パトロールの点検項目に道路の海側にある歩道も入っているか、伺います。 ⑤ 現在の飛砂の状況は、どうなっていますか。 	